

健康 コラム

住み慣れた地域で 自分らしく暮らすために ～入退院支援室の役割～



秋田厚生医療センター
入退院支援室 伊藤 厚子
いとう あつこ

秋田県の高齢化率は何パーセントか知っていますか？

令和2年7月1日現在37.9%で、日本一です。その中で65歳以上の高齢者のみの世帯は全世帯の32.4%です。病院に入院する患者さんも高齢者の方が多くなっており、高齢者夫婦の二人暮らしや一人暮らしの方も多く、退院してからの生活に不安を抱える患者さんも多くいらっしゃいます。

入退院支援室では、患者さんが不安なく入院でき、退院後も必要な医療や看護・介護を受けながら、できるだけ住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう支援しています。

入院支援について

病気になる、初めて入院と言われたとき不安ではありませんか？

入院支援室では、入院が決定した予約入院の患者さんに対して入院案内やクリニカルパス(ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者さんのスケジュールを表にまとめたものです。作成されていない病気や検査の場合はお渡ししない事もあります。)に沿って説明しています。一般的な内容に加え、個別性に配慮して患者さんやご家族の不安を伺い、多職種と連携しその場

で対応しています。入院が決まってから不安なく過ごせるよう患者さんに寄り添う支援を心がけています。入院前に直接説明を聞くことで、入院前から入院中や退院後のイメージができると思います。

また、退院後の生活に不安がある患者さんには入院前から退院支援看護師へ情報提供し、入院時からすぐに支援できるよう連携しています。

退院支援について

秋田厚生医療センターでは各病棟に退院支援看護師が配置されており、病棟看護師や多職種(主治医、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、機能訓練士、栄養士、薬剤師など)と連携して、退院支援・退院調整を行っています。

今は以前と違い入院期間が非常に短くなっており、介護や医療行為が必要な状態でも治療が終了すると退院になります。「家に帰っても一人暮らしだから心配だ。」「退院後も医療処置がある。」「一人でトイレに行けなくなってしまった。」など、入院により生活様式が変わってしまい、自宅に退院するのが不安だ、と感じることがあると思います。

退院支援看護師は入院時早期から患者さんやご家族と面談し、患者さんの思いや家族状況・介護体制・住居環境を伺い、退院後の療養場所について確認します。また、施設など自宅以外からの入院した場合もケアマネジャーや施設相談員など関係者と連携していきます。

退院支援が必要な患者さんに対して、患者さん・ご家族が病状についてどのように受け止めているか、今後どのようなことを希望しているのか、利用するサービスは何かが必要か伺い、自宅に退院することが難しい場合は患者さんやご家族の相談に応じて、退院先の調整を行います。患者さんの退院先により、各担当者と多職種でカンファレンスを行うことで、退院後も継続した医療、看護、介護を受けながら住み慣れた地域で自分らしく暮らすために支援しています。

患者さんやご家族と意思を共有し、安心・納得して退院できるようにお手伝いしています。退院後の生活について不安や心配な事がありましたら、各病棟の退院支援看護師にお声掛けください。